



# ひまわり通信

社会福祉法人 北光福祉会

TEL (0158) 46-2120 <http://www.hokko-fukushi.or.jp/office/>

ひまわり学園 くれよん ぱすてる

〒099-0622 北海道紋別郡遠軽町生田原安国302番地7

TEL (0158) 46-2020 <http://www.hokko-fukushi.or.jp/himawari/>

向陽園

〒099-0622 北海道紋別郡遠軽町生田原安国347番地2

TEL (0158) 46-2525 <http://www2.ocn.ne.jp/~koyoen/index.html>

地域生活支援パオ ゆめいく 燦ホーム センターもね

TEL (0158) 46-2020 遊友やすくに ぱれっと遠軽

相談支援室ま〜ぶる TEL (0158) 46-3383

247号



2019 / 3

## ひまわり学園長

### 退任に当たって

ひまわり学園長 湯浅 民子

雪が少なかったせいで訪れの早かったこの春は、私にとって大きな変化の季節となっている。この三月末をもって、ひまわり学園長を退任することになったからである。

毎年この時期は、慌ただしさのなかにも新たなスタートへの期待感があるのだが、三月から先がないと言う状況のなかで、気持ちの向かいどころを見つけられずにいる。

三十七年という長い間、この職にあった。ひまわり学園が開園したのは、昭和四十四年七月である。初代園長であった夫湯浅正邦の傍らで、開設に伴う雑務を手伝うことになった。信じられないほど貧しかった。

昭和五十三年には数年にわたる設置運動が実って念願の成人施設向陽園が開設された。夫は初代園長として二つの施設を兼務していたが、行政の指導があつて昭和五十七年に私がひまわり学園園長職を引継ぐことになった。まだまだ人が定着しない時代で、たまたま私が近い立場に居合わせたのである。

そこからは、一直線に過ぎた道だった。向陽園園舎新築に合わせて、隣にわが家を

新築した。管理の必要からだ、公宅を建てる余裕が無かったのである。

隣に向陽園があり、北に面した台所の窓からはひまわり学園が望まれる。二つの施設の営みを生活の一部にしながら過ごしてきた。

ひまわり学園が開設されてこのかた、一度も敷地外に住んだことは無い。特に園長になつてからは、一か月ほど手術で入院生活を送つた意外にまとまつた休暇を取つた記憶がない。我ながら信じられない一途さである。

過ぎ去つた道は決して平坦ではなく、多くの試練があり、申し訳なかったこと、慙愧や悲しみに耐えなかつたことが数思ひ返される。そうした中でも開設から五十年間、ひまわり学園を「子どもの施設」として守り続けてこられたことは何よりと思つている。

そこには、目の前の子どもやそのご家族の存在、それぞれの時代時代を担つた役職員の尽力、学校や地域あるいは行政や自治体など多くの支えや協力があつたからである。

また、家族とりわけ仕事本位の両親を支持してくれた我が子たち、そして、長く仕事に耐える丈夫な体を与えてくれ、苦難はあつても前向きに心正しく生きる姿を見せてくれた両親のお陰でもある。

さしたる能力の無かつた私がここまでやつて来られたのは、こうしたまわりの人に恵まれていたからで、只々感謝なのである。

\*

ひまわり学園開設の話が具体化したのは、昭和四十二年頃と記憶している。安国にあった電話中継所が機械化で廃止になり、その施設を再利用する話が出た。土地は五千平方メートルほどだが、鉄筋コンクリートの頑丈な庁舎、独身寮と二棟の住宅があり、何より学校の近くという利便地にあった。

自立の難しい子どもを受け入れる施設を開設することになり、初代園長に、当時養護施設北光学園の児童指導員であった夫が任命された。間もなく三十歳という若さだった。

「新しい学園の名前は何かつけようか？」

「できるだけ明るいイメージが良いと思う」

「ひまわりの花からとって、ひまわり学園なんかなかな？」

「そうだね、それが良いね！」

開園後の過酷な状況など想像だにすることなく、若かった夫と私は新しい施設への夢をふくらませていた。今思えば怖いもの知らずの二人だった。

開園に先立つ五月、二歳の娘と三人で敷地内に引越してきた。廃止して二年しか経っていない敷地には雑草が生い茂り、水も満足に出ず、開拓者のような気分させられた。

施設ができる、と娘を夜一人で歩かせられなくなる、と一部の人から反対運動が出たこ

とを知らされていた。

やがて開園。それまで会ったこともない重い障害の子どもや、保育や教育はおろか医療も満足に受けられず、二次的な遅れを持った子どもが次々に入所してきた。充分でない施設設備の中で、夫はじめ職員にとって試練と試行錯誤の日々が続く。

開園から数ヶ月後、追い討ちをかけるように集団赤痢が発生した。法定伝染病の発生で地域からさらに警戒される存在になった。

当時のひまわり学園は、教育代替の役割を担っていたから、学校へ通うわけではない。

外とのつながりは極端に少なく、孤立した生活だった。そうした中で、敷地内に残っていた電話中継装置の点検にやってくる職員は貴重な来訪者だった。その人たちはいつも、子どもたちに隔てない好意を示してくれた。

十月二十三日は、「電信電話記念日」となっていて、毎年のその日には、お菓子や職場で募った寄付金を届けてくれるということが、長いこと続いたのである。

やがて電話中継所自体が廃止になる日がやってきた。職員数名がお別れに来園し、黒い手回し式の電話器とダイヤル式の電話機を記念品として贈呈してくれた。今も学園の応接室に大切に飾っている。

NTTになってから、北見支所の所長さんが来園され、私の使っていた机を見て、OA

機器対応の机を譲ることを申し出てくれた。その机は今も使っている。

\*

当時の学園は、すべてにおいて不備で、子どもたちの生活環境や、日常の指導や訓練も満足なものでは無かった。そんなひまわり学園にすぎるような期待や信頼を寄せてくる保護者の存在があった。

療育はおろか保育も教育も受けられず、障害のある子を抱え、悲しむ余裕すらなく、ただただ困惑の極にいる母親が大勢いた。

ある時、前触れもなく普段着姿で幼い男児の手をひいて玄関に立った母親がいた。死の淵を彷徨ってきたことがうかがえ、このまま帰してはならないと思った。定員に空きが無かったにかかわらず子どもを預かった。

突然に見知らぬ集団に入れられ、泣いて後追いつる子どもから逃げるように去っていく母親の姿。子どもを預けたという自責の念と、世間への負い目もあるに違いないのだった。

私もひとりの母親として、そのつらさや悲しさは察するにあまりあった。福祉と言いつながら、何と残酷さを強いる仕事なのか？ 時おりそんなジレンマに襲われた。

しかし、子どもは新しい生活に慣れていく。すると母親も自分を取り戻して、本来の明るさや、生き生きとした姿を見せてくれるよう

になる。それがうれしかった。

当時は、年一回、親子で宿泊旅行を実施していた。行政が健全育成の名目で予算をつけて推奨してくれていたのである。

「この子をつれて旅行なんて始めてしたわ」「みんな一緒だと気にしなくてもいいしね」障害のある子を抱え、肩身の狭い思いをし、できたことがひしひしと伝わった。

子どもたちの学園での様子を知らせたいと、広報誌「ひまわり通信」を発行ししたのは、昭和四十八年からである。開設から五年間の一番大変な時期を支えてくれた内田清事務長の熱心な勧めがあったからだが、私が多少のガリ版印刷の技術を持っていたこともある。

第一号を保護者にとってすぐに、ある父親から便りが届いた。「息子がどうしているか知りたかったので、休み時間に昼ごはんも食べずに読みふけりました。腹もすきません」と。

以来、二度目の集団赤痢発生と、次女の出産で一時期勤めを中断した以外は毎月発行した。

平成に入ってからにはワープロ、さらにパソコンに変わり、現在は年三回と発行回数も減したが、四十年以上、絶やすことなく発行し続けることができた。この発行を通じて、多くの人と交流でき、新聞コラムの執筆や、著書の出版などにもつながった。

「ひまわり通信」と言う名は、長崎県にあっ

たのぎく学園の「のぎく通信」を真似たものである。やはりガリ版印刷の手づくりで、毎回、近藤えい子園長先生の飾らない文章が楽しみだった。無認可施設で近藤先生が亡くなった後、施設は閉じられたが、発行回数は二百五十号を超えていた。私もそこを目標にしていたが、どうやら果たせそうにはない。

ひまわり通信の内容は、保護者への近況報告から、福祉現場から社会に向けての啓蒙や発信に変わっていった。児童や障害者を取り巻く福祉はこの半世紀で大きく前進し、社会の障害者観も変わった。サービスとも呼ばれるようになった福祉の制度を利用することによって昔のようなためらいは無くなった。

それでもやはり、否それだからこそなのか、家族の元を離れて生活する入所施設への偏見は無くならない。この形が最善と言うつもりは毛頭ない。けれどもここに暮らさざるを得ない子どもの存在があり、そこを最善の場にしようと努力している職員集団があることを分かってほしいと思ってきた。余人の知りえない世界だからこそ、伝えていく努力をしなければならない、と。

これから広報活動がどのように変わっていくか未定だが、せめても「思い」や「心」が伝わるものであってほしいと願っている。

\*

ひまわり学園長として最後になる文章が、何やら、昔語りのようになってしまった。多分、そこに私の原点があるからだろう。あの時のあのお母さん、あの時のあの子ども、あの時のあの言葉、あの時のあの涙……。役割や使命感と言ったものではなく、これまで出会ってきた一人ひとりに、励ましや慰め、勇気や力をもらい、それらが支えとなつてここまで来られたのだろう。

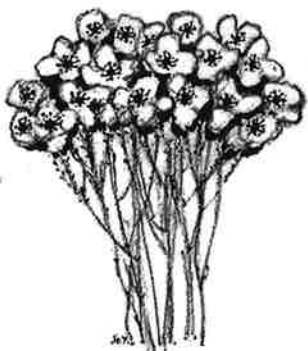
机の片付けをしていたら、古いひまわり通信が出てきた。当時三十五歳の私の文章があったので、抜粋して載せてみたい。

—私はい最近まで、大きな計算違いをしていた。学園の最年少のS君は現在六歳であるが、私は彼の人生の最後まで見届けてやれると思いきんでいた。不可能であると気がついたのは最近のことである。前後して気がついたのは、自分が関わることでできる子ども、そして時間にも限りがある、ということ……。結局この仕事はあのボール渡し競技のようなものではないだろうか。手にしたボールは必ずいつか、誰かの手に綿さなくてはならない—

今、そのときがきた。

進みゆく道すじに、

光あれ……。 (了)



# ひまわりの里の動きから

## 人事のお知らせ

平成三十一年四月から変わるひまわり学園園長を始め、ひまわりの里内の施設・事業所に新しく加わる職員を紹介します。

### 【園長】

○ ひまわり学園園長 藤井 康成

法人事務局長や、ひまわり学園副園長を務めていて、法人やひまわり学園ではおなじみです。よろしくお願いいたします。

### 【新任職員】

○ ひまわり学園

看護師 山本 珠江 (助産師の経験豊富)

保育士 坂東 佳奈 (オホーツク福専卒)

保育士 宮本 芳 (二年前まで勤務)

事務員 鈴木 颯馬 (遠高卒)

○ くれよん

保育士 加藤 蘭奈 (オホーツク福専卒)

○ 向陽園

生活支援員 堂前 香鈴 (旭川福専卒)

### 【異動】

○ くれよん

保育士 荒谷 涼音 (ひまわり学園から)

## グループホーム

### 「ゆとりが丘壺番館」

が完成

平成二十九年度の国・道の補助金をいただき、遠軽町南町に建設していたグループホームの建物が、三月半ばに完成し、引渡しが行われました。

「ゆとりが丘壺番館」と「ゆとりが丘壺番館」と命名されました。

六人用のホーム二棟の連結型ですが、名前のおり、平屋のゆったりとした造りで、それぞれに玄関、広いダイニング、浴室、トイレも身障者用も含めて二ヶ所あり、中央に世話入室や厨房があります。

全館バリアフリーで、スプリングラームも完備した安心・安全な建物です。これまで、二階の居室に行くのに、長い階段の上り下りを余儀なくされていたハピテル211の高齢の人や、ハピテル99とハピテル207の女性利用者が一部入居予定です。

同じ町内に、コーポ南が丘とカーサ南が丘があり、数軒先の距離ですから、交流や連携もできます。歩いて買物もでき、安全な散歩コースもあります。

環境に恵まれた地で、平穏な豊かな暮らしが営まれますように。



## 巣立ちのときに

この春にひまわり学園を巣立っていく三人と、送り出す職員の声をお伝えします。

### 学園のしよくいんさんへ

歩み寮 阿部 倭



学園の生活は大変なこともあったけど、いろいろたのしかったです。たとえば外出や夕食会がたのしかったです。

毎日、学校に行くのは大変だったけど、これから、サン・コロネのしごとはもっと大変だと思えます。でもがんばります。

十一年間、ありがとうございました。

\* \* \*

### 倭くんへ

大口 侑希子

卒業、卒園おめでとう。倭くんはひまわり学園で十一年間を過ごしたことになりますね。そのうち睦み寮と歩み寮での五年間を同じ寮で過ごし、倭くんの成長を近くで見守ることができました。

食べることが大好きで、夕食会ではお手伝いをたくさんしてくれました。倭くん特製の卵焼き、とてもおいしかったですよ。

手先も器用で、ダンボール工作やプラモデルづくりでは、その仕上がりに何度も驚かされました。

身体も心もどんどん成長し、最近では年長者として周りの人へ気遣いながら関わられるようになりました。大きな身体で、小さな子に優しくしてくれる姿、頼もしかったです。嬉しかったし、助かりました。

これから大人としての生活が始まりますが、ぜひ楽しんでください。サン・コロネで、倭くんが作ったパンを売りに来るのを今から楽しみにしています。

(阿部倭くんは、四月からグループホームハイム茜に入居し、サン・コロネで働きます。)

### ひまわり学園退所に当たって

育ち寮 植野 友章



ひまわり学園では、夕食会や学校の行事のイベントなど色々なことがありましたが、ほとんど覚えていません。ですが、いつものように、退所しても気楽に過ごしていこうと思います。

\* \*

### 植野くんへ

金崎 絃子

植野くんとは、学園で四年間一緒にすごしました。声を出して笑い合ったり、一緒に出かけたり、時には苦しい気持ちになったこともありました。

植野くんは、どんな場面でも自分と向き合おうとする姿勢があり、「そんなことないです

よ」と言われそうですが、私はそんな植野くんをひまわり学園に来てからずっと見てきました。たまに、謙虚過ぎるくらい謙虚ですが、次の生活の場でも、変わらず自分らしく過ごしてほしいなと思います。

植野くん、今までありがとう。君の笑顔が日に日に多くなり、たくさんの人と繋がっていく様子を見てきたので不安はありませんが、私も、寮のみんなもさみしく思います。

毎日には会えませんが、同じ町内に住むので様子を見に行きます。

これからもよろしくお願いします。

(植野友章くんも、四月からグループホームハイム茜に入居し、サン・コロネで働きます。)

### 釧路にかえります

望み寮 上田 昭平



ひまわり学園の職員の方皆さん、友達のみんな、今までたくさんお世話になりました。ありがとうございます。

僕はここからは遠い、釧路に行くけど、仕事も生活も頑張っていこうと思います。いつかまたひまわり学園に遊びに来ます。

\* \*

### 昭平くんへ

石川 一誉

昭平くん、ご卒業おめでとうございます。昭平くんとは、三年間、一緒に時間を過ごし

ました。昭平くんはとても元気で、優しく、まっすぐな男の子でした。そんな昭平くんがみんな大好きでした。

生活面で僕に注意され、怒ってしまうこともありました。振り返りをしてすぐに直そうと努力していたことは、とても素晴らしいです。そんな昭平くんの思い出を、大切にしていきたいです。

これからは釧路の地で、グループホームでの生活、仕事、慣れない生活が続くと思いますが、自分の力を信じてがんばってください。昭平くんのことを、ずっと応援しています。

### 国井利菜さんへ

この四月から向陽園に

入所することが決定しました。

ひまわり学園で成人式を迎えてから進路先が決まらず、約二年間ひまわり学園で過ごした利菜さん。皆が巣立っていく中で焦りを見せ、会うたび「進路まだ？」と繰り返し聞いてた利菜さんだけに、本当に良かった。

乳児院と養護施設を経て、小学校就学時にひまわり学園に入所してきました。途中、母親と再会しましたが、数年前に亡くなられました。肉親の縁の薄い人生を送ってきた利菜さん。幼い日から長く過ごした安国の地で、幼馴染みもいる向陽園の仲間と、ゆったり楽しい成人期を過ごしてください。(湯浅記)



# 御礼

平成三十年十二月一日から

平成三十一年二月二十八日まで

の間に、ひまわり学園、向陽園、

燦ホーム、ゆめいく、センターもね、遊友や

すくに、くれよん、めるくる、ぱすてるに、

次の多くの皆さまからご芳志をいただきました。

た。

クリスマス、お正月を挟んでいるこの時期、

毎年恒例になっている個人や団体からのお菓

子やケーキなどのプレゼントが多く寄せられ、

ありがたい限りでした。

ひまわり学園は、まだまだサンタクロース

の存在を信じている子どもが多く、二十二日

のクリスマスパーティーに始まった数日間は、

うれしさや喜びに包まれたかのような園内で

した。向陽園のパーティーは、氷のキャンドル

の映える夜の開催で、大人なのでアルコール

も出て、ゆったりくつろいだ雰囲気の中で楽

しいひとときを過ごしました。

石狩市在住の寒河江さんは、地元石狩の浜

の自然を写した写真をたくさん送ってください

ました。ひまわり学園管理棟廊下の一角を

ミニギャラリーにして飾っています。

数年前に退所した榎くんは、旭川の銘菓を

子どもたち全員の分も用意して届けてくれま

した。今は、コンビニのアルバイトを掛け持



ちしているとか。がんばっているようです。

福岡の横溝医師からは、今年も新入学児童

へと、イオンの商品券が届きました。

ご芳志を寄せてくださった方のお名前はつ

ぎのとおりです。紙面を通じて厚くお礼を申

し上げます。(順不同・敬称略)

## 《金一封》

遠軽町 (株)工藤電機 (有)遠軽清掃社 旭川ト

ヨタ自動車(株)遠軽店 石川和枝 (株)アオイケ

遠軽ロータリークラブ 熱田洋子 加藤政雄

北洋銀行遠軽支店 清水直人 苗田建設(株)

大湧工業(株) 保科浩則 長谷川光夫 遠軽町

社会福祉協議会 遠軽信用金庫生田原支店

坂田直繁 三浦美知子 佐藤洋哉 高橋新聞

店 吉川産業(株) 遠軽町共同募金会(遠軽)

仲谷智 山口香織(紋別) 北海道共同募金

会(札幌)

## 《物品のご寄贈》

遠軽陸上自衛隊曹友会 大湧工業(有) ネット

トヨタ北見(株)遠軽店 山口産商(株) 佐藤商店

あづま損害保険事務所 細野石油(株) イト電

商事(株) 細野石油(株) 三共後藤建設(株) 栄管

工業(有) 田中眼鏡店 本田典子 はたの商店

小西商店 遠軽町社会福祉協議会 阿部早紀

苗田建設(株) 大神田一寿 大神田佳代 アキ

ユート 中野スミ子 温森幸治 井筒ひとみ

照井梓 郡友和 大崎喜代志 堀田恵美子

山岸文夫 縄陸博 伊藤三千子 光紀バス(株)

北洋銀行遠軽支店 イト電商事(株) 高橋捷史

藤井産業(株) 西原弘 千葉美佐世 後藤仁美

原田広和 永谷哲治 斎藤節子 鈴木由美子

清水直人 三浦美智子 秋保勝巳 望月利昭

端場勝一 柏谷貴文 中野静子 牧野久仁彦

佐藤光 長岡春三 橋本はる江 安村まり子

大森和子(遠軽) (株)セコマ北見地区事務所

コカコーラ北見営業所 天内工業(株) 丸山守

会田勝男 森谷権三 葛木和弘 八木沼隆春

川森修二 沢井美喜子 阿部美代子(北見)

増山智美 安彦好子 石原洋二郎 石田栄子

(湧別) 土門善弘 田中由範 歳永俊江(佐

呂間) 広島真美 山口香織 小野寺映子

廣島真美 白田和博 小出文子 山下常男

(紋別) 有路カツ子 楠目広志 楠目京子

日下優子 原(美幌) 今村由美(網走)

坂本美幸 菱木勝(斜里) 西村和美 榎徹

今井知佳子(旭川) 市立名寄短大ぐるんぱ

(名寄) 大山球道 川東広子 あおぞら職

員有志(帯広) 森田孝俊 森田初枝(別海)

札幌こども専門学校 今村敬紀 日清医療食

品(株) 須藤利昭(札幌) 阿部理美子(江別)

中谷宏光 白川陽子(函館) 大場玲子(埼玉)

岩村栄子(千葉) 横溝昌幸(福岡)

轟木元枝(佐世保) 森月美香(オーストラ

リア在住)

《ボランテイア》

遠軽陸上自衛隊曹友会 遠軽高校インターアクトクラブ ひまわり学園分校教職員有志 保科浩則 木下敬裕 保科通子 鈴木颯馬 清水直人(遠軽) 井田みのり(北見)

《ベルマーク収集》

三品 勲(湧別)

ひまわりの里後援会だより

平成三十年十二月一日から平成三十一年二月二十八日までの間に、次の皆さまからご協力をいただきました。

平成三十年度の助成事業として、グループホーム新築に当たり、次の各ホームへ寄付を行いました。

- ・ハイム茜へ、2,000,000円
- ・ゆとりが丘壺番館・ゆとりが丘式番館へ 2,000,000円
- ・燦ホームひがし館・燦ホームにし館へ 3,000,000円

このうち、燦ホームひがし館・にし館は現在建設工事中で、六月中の完成を待って助成を行うことになっています。ご協力を寄せてくださった皆様に紙面を通じて厚くお礼を申し上げます。

林明男 笠井家具店 溝端紙工印刷(株) 森本 (敬称略、順不同)

麗子 粕谷さつ子 加藤あゆみ 松原建設(株)

新山真稚子 湯浅民子 石川和枝 工藤克哉

大杉潔 松尾淳司 佐藤光 佐藤直美 清水

直人 阿部豊子 苗田建設(株) 旭川トヨタ自

動車(株)遠軽店 (有)遠軽清掃社 (有)遠軽種苗園

(株)山口産商 東海林不動産(株) 遠軽信用金庫

生田原支店 (有)道東ハウジング 大湧工業(有)

イト電商事(株) ネットトヨタ北見(株)遠軽店

吉川産業(株) 遠軽町社会福祉協議会 小西商

店 (株)工藤電機 仙頭百合子(遠軽) 土門

善弘(佐呂間) 細木亜由美 天内工業(株)

井関利男 丸山守 松田波江 (株)小柳中央堂

岩崎久衛 渡辺裕明 北見市おもちゃライブ

ラリーの会 尾藤照明 小森尚武 船場弘治

(北見) 有路カズ子 (株)三共後藤建設(美

幌) 佐藤秀夫 村田清一(大空) 大口薫

松浦敬貴 (株)渡辺組 岳上光雄(湧別)

山下常男 谷田エイ 滝口貞子 塚田玲子

(紋別) 森岡陽子(滝上) 加藤満(興部)

野田勅子(音更) 中井雅幸(帯広) 内田

秀雄(上川) 池田商店(雨竜) 須藤利昭

吉田さやか 黒柳徳太郎 秋保恵治 途中ス

エ子 (株)佳総合設計室 北島春雄(札幌)

宮本芳 阿部理美子(恵庭) 菜原智子

広島洋子(函館) 西川千恵子(奈良)

書き損じハガキ

湯浅民子(遠軽) 長谷川善美(北見)

ひまわりの里後援会への

ご協力をお願い



ひまわりの里後援会は、ひまわり学園・向陽園の二つの施設及び児童デイサービスや、障害者のグループホーム・通所施設など、法人内の障害のある児童と障害者の福祉事業を財源面で支援することを目的にしています。

昭和五十年三月に発足し、五十二年の向陽園園舎新築を皮切りにこれまでにひまわり学園園舎改築、グループホームの新築時の助成、車両購入など施設や設備に向けてさまざまなお助成を行ってきました。

これからも、事業の発展と充実に向けて、後援活動が続けてまいりますので、お一人でも多くの皆さまのご支援やご協力をお願いいたします。

1. 入会のご案内

年会費を納めていただきます。おこころ

ざしのある方、ご一報ください。

2. 主な事業について

① ひまわりの里チャリティバザー

ひまわりの里合同運動会に合わせに行われます。販売品を集めています。

② 切手類を販売しています。

切手、はがき、印紙などを扱っています。書き損じはがきも集めています。

(事務局)ひまわり学園 ☎4622020

## 保護者の皆さんへ

## ◇ひまわり学園関係◇

消えゆく雪の代わりのように、ネコヤナギが銀色の芽を膨らませていきます。この冬は荒れることの少ない穏やかな冬で、子どもたちも心配されたインフルエンザ等のり患もごく少なく、元気に過ごすことができました。

健康管理については、念願だった看護師さん見つけ、勤務するようになりましたので心強くなりました。

二月の冬のひまわり祭でお手伝いくださった保護者の皆さま、ありがとうございました。

小学校、中学校、高等学校の卒業生は、それぞれ立派に卒業証書を受け取り、三名が巣立って行く予定です。

新しい子どもが加わり、新しい園長先生に変わり、新しい職員も加わり、元号とともに多くの面で新たなスタートを切る

ひまわり学園です。新年度もみんなにとって良い年にしたいと思えます。

よろしくお願ひします。

## ◇向陽園関係◇

最近春の訪れを感じさせるような暖かな日が続いており、周りの雪も少しずつ溶けて、新緑が待ち遠しく感じる今日この頃です。

今年の冬は寒さが厳しかったものの、大き



な風雪害は少なく比較的穏やかに過ごすことができました。近隣市町村で流行したインフルエンザも向陽園では大きく広がらず安堵しています。利用者の皆さんは体調を崩すこともなく過ごされています。

例年、行われている湧別原野オホーツクロスカントリースキー大会に、向陽園からは5キロコースに15名が参加しました。天候もよく気温も比較的高く滑っていると汗ばむような陽気でした。道中ご家族の応援を背に、時には一緒に伴走をしてもらい協力していただき、参加者はそれぞれに持てる力を発揮しベストを尽くせたのではないかと思います。

今年一年はご家族の皆さまのご協力のもと、日々の生活やイベント等で利用者さんが楽しく元気に過ごすことができたことに改めて感謝を感じております。

来年も皆さまと楽しく過ごしていけるよう、手を取り合い一緒に歩んでいければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

(高橋 梓記)

## ◇パオ関係◇

パオにとってもこの冬は、概ねみんな変わりなく元気に過ごすことができました。

先に載せたように、遠軽町西町と南町にグループホームの新しい建物が建設中で完成が心待たれましたが、どちらも無事に工事が完了し、ハイム苗は引越しも終え、無事スタ

ートしています。伴って燦ホーム内では若干のメンバーの入れ替えがありました。

ゆめいくについても同様で、新年度に入ってから、グループホームの統合や整理が予定されています。それぞれ、四月の保護者懇談会で説明いたしますのでよろしくお願ひいたします。センターもね、遊友やすくにも、それぞれ新年度に向けて準備を進めています。サン・コロナは、開店時からのパートスタッフ二名が退職し、新しく栄養士さんと調理師さんが加わりました。二名の利用者も加わり、心機一転のスタートになります。

新元号の新年度もよろしくお願ひします。

## あとがき

ひまわり学園から始まった障害のある人たちの福祉に、半世紀にわたって携わってきた。不遇な境遇を少しでも良くしたい、との一念で過ぎた年月に、対象者の喜び、悲しみを身近に感じ取れる魅力とやりがい満ちていたと言いつつ切ることができるときに負担と感じた「ひまわり通信」の編集発行も、思いを書いて発表するというまたとない機会を与えてくれた。

弟子屈に住むかつての仲間から「ひとつの時代をくぐり抜けた」との言葉が。あらためて感無量の思いが湧いてくる。

しばらくは、後方支援部隊でありたい。

ご支援とご愛読に深謝しながら…。(湯浅記)